

目次

特集
響き

2 巻頭言

6 ジャズの響き

——ハービー・ハンコック、マイルス・ディヴィスとアメリカ現代におけるアヴァンギャルドの系譜

加藤 雄二

特集エッセイ

28 渚にまつわるエトセトラ

——あるいはスピッツと真心ブラザーズが 1990 年代半ばにポップスとロックの「波打ち際」にもたらしたものは何か

荒原邦博

44 うたと祈り

——癒しと救いをもたらす言語行為についての一考察

丸山空大

60 聞こえる音、聞こえない音

——コプト正教会の音風景についての一考察

三代川寛子

73 インドの響きを読み解く試み

——音と情操

水野善文

86 タイ料理を歌う「ルークトウン」

コースイット・ティップティエンボン

92 “視線”と“声音”はハルピンをどう体験したか

——中国人作家屠青あるいは音楽団体口琴（ハーモニカ）社の作法

橋本雄一

奇稿論文

106 〈自然〉の牽引

——『痴人の愛』『古野葛』における魅惑の在り処

柴田勝二

130 曙山の二重螺旋階段図の起源

——画像の系譜学に向けて

吉本秀之

報告 2018 年活動報告

148 「十三世紀ペルシア神秘主義詩人ルーミーの『精神的マスナヴィー』より～「葦の嘆き」を読み解く～」及び「ペルシア文学を読み解く：ルーミーの説話の世界」

(佐々木あや乃)

151 海 —— 想起のパサージュ

イルマ・ラクーザ 多和田葉子 朗読・対談

(山口裕之)

153 『失われた時を求めて』におけるエドゥアール・マネについて、あるいはマルセル・ブルーストと前衛／古典の問題

(荒原邦博)

156 総合文化研究所ワークショップ

二十世紀初頭におけるコプト・キリスト教徒の文化ナショナリズム

(三代川寛子)

157 ウンベルト・エーコとイタリアの記憶

(小久保真理江)

159 総合文化研究所 Workshop Series 第六回

プラトーフ『ジャン』のもう一つの結末についての再考

(古川哲)

160 合評会

久野量一『島の「重さ」をめぐって —— キューバの文学を読む』

(高木佳奈)

162 アヴァンギャルドとジェンダー

(小松原由理)

(西岡あかね)

166 ヒラリア・ゴスマン氏 (トリーア大学) 講演会

3・11 フクシマ —— 日本のテレビドラマと映画における表象

(西岡あかね)

168 総合文化研究所シンポジウム

欧米文学から見る日本翻訳史

(山口裕之)

172 総合文化研究所 Workshop Series 第七回

ローベルト・ヴァルザーの絵画批評における時間性

(木村千恵)

173 総合文化研究所 Workshop Series 第七回

フィリップ・マインレンダーの芸術論

——詩的リアリズムとの親近性

(永盛鷹司)

新刊紹介

書評

176 久野量一著

『島の「重さ」をめぐって キューバの文学を読む』

島の「重さ」、あるいは裸のキューバ

真下祐一

著者からひとこと

180 逆井聡人著

『〈焼跡〉の戦後空間論』

逆井聡人

181 大高保二郎監修・著、久米順子・松原典子・豊田唯・松田健児著

『スペイン美術史入門 —— 積層する美と歴史の物語』

久米順子

182 丸山空大著

『フランツ・ローゼンツヴァイク —— 生と啓示の哲学』

丸山空大

183 訳者からひとこと

ファム・コン・ティエン著／野平宗弘訳

『深淵の沈黙』

(野平宗弘)

ウンベルト・エーコ著／和田忠彦監訳

石田聖子・小久保真理江・柴田瑞枝・高田和広・横田さやか訳

『ウンベルト・エーコの世界文明講義』

(小久保真理江)

-- 編集後記